

令和5年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	「テレジン收容所の幼い画家たち展」
団体名	「テレジン收容所の幼い画家たち展」実行委員会
市担当課名	川越市人権推進課
事業の目的	テレジン收容所の中で描かれた子どもたちの絵を通して、いのちと平和の大切さを考えるきっかけとし、極限といわれる境遇の中でも支えてくれる大人の力があれば子どもたちは生きる力を持つことが出来る事を知って欲しい。
事業の実施内容	令和5年12月5日（火）～10日（日）「テレジン收容所の幼い画家たち展」市立美術館・市民ギャラリーにて開催。絵のパネル展示とホロコースト関連書籍30冊を自由に閲覧できるコーナーの設置。貴重な生還者の方からのメッセージや野村路子さんの活動の原点になった大切な品々も展示。来場者 585名（除スタッフ）12/9（土）野村路子さんのギャラリートークを、2Fアートホールにて午前・午後2回行う。参加者87名。同ホールの壁面に「野村路子さんの32年の足跡」の展示。「訪問授業」は、11/20、11/24、12/13、12/14 実施。野村路子さんの話と生徒との質疑応答。4校の6年生各クラスに著書合計39冊寄贈。
事業実施時における市との役割分担	人権推進課との協働事業としてさらに事業内容を充実したものにしていきたいと思い「訪問授業」にも取り組みました。
	人権推進課からの教育委員会や美術館への要請のおかげで小学校への案内やアートホールでの事業をスムーズに行う事が出来ました。当日は実行委員と同じように色々なお手伝いしていただきました。
事業の成果	市民ギャラリーでの展示方法を工夫したことが好評でした。アートホールでのギャラリートークは、テレジンの子どもの絵の見方を知る良い機会になりました。 今回初めて、小学校を訪ねて、野村路子さんが6年生にテレジン收容所で描かれた子どもたちの絵をスクリーンに写したりしながら、絵から聴こえる子どもたちの夢や希望の事、收容所での生活の事、ホロコーストの事などの話をしました。野村さんの話を真剣に聴いていた生徒たちは、グループで話し合ったり質問したりしました。今の自分たちの生活と比べながら「いのち」や「平和」については勿論、自分の身の回りの事を考える大切な機会になったと思います。贈呈した野村さんの著書を読んだり、中学高校と様々な学習をしたりする中で、この授業での気付きが深い理解につながるものと期待します。教科書の執筆者の野村さんから直にお話を聞き、質問したり一緒に考えたひとときは、貴重な体験になったのではと思います。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	協働事業として川越市立美術館で3回テレジンの子どもたちの絵画展を開催いたしました。毎回リピーターの来場者が多いのは、やはり二度、三度と見ても、そのたびに新たな感動や気づきが多いからだと思います。まだまだ川越で何度でも多くの市民の方、子どもたちに見て欲しいと開催を続けていきたいと強く願っています。さらに地元にお住まいの野村さんと直に接してお話を聞く機会を市内の学校、地域で展開していきたいと思っています。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和5年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	がくどうigoサポート&キャラバン事業
団体名	川越igoまち倶楽部
市担当課名	教育総務部 教育財務課、地域教育支援課
事業の目的	市内の囲碁団体や日本棋院・囲碁愛好家有志とも連携し、囲碁の習得のみならず、囲碁が内包する力（思考力・集中力・構成力・決断力・変化への対応力・忍耐力・コミュニケーション力・礼儀等）を活用。子どもたちの人間力を育むとともに、多世代交流による安心できる居場所づくりを目指す。
事業の実施内容	①キャラバン隊の囲碁教え方勉強会（前年度事業の振り返り、今年度事業のすすめ方など）：R5.5.27実施（18名参加） ②吉原由香里六段による囲碁勉強会（学童保育支援員研修の一環）：R5.6.30実施（57名参加） ③キャラバン隊の派遣を希望した学校および放課後子供教室を訪問し、囲碁の出前講座を実施：R5.6.8～R6.1.5実施（計27回実施 参加児童延べ489名） ④事業検証：参加児童、学童保育支援員にアンケートを実施 ⑤実施報告書作成：R6.2.26作成（200部）
事業実施時における市との役割分担	川越igoまち倶楽部：囲碁の出前講座を通じ、児童の遊び時間の充実、子どもたちの人間力育成とともに、地域・多世代交流による安心感と自己肯定感の醸成、教育現場の負担軽減など。 川越市：教育総務部および学童保育・放課後子供教室との連絡・調整・アドバイス、研修の設定・参加者募集、アンケートの実施、その他必要なアドバイス
事業の成果	担当課、学童保育支援員、放課後子供教室スタッフ、囲碁出前講座の講師・スタッフの多大なご理解とご協力をいただき、令和5年度事業は、昨年度に引き続き、大きな成果を得ることができたと考える。 <キャラバン隊派遣実績> ●学校数でカウント：20校 ●訪問回数でカウント：27回 ●参加児童数でカウント：延べ489名 また、派遣を希望しなかった学童も含め、学童保育支援員へのアンケート調査を2回実施したほか、参加した子どもへのアンケートを初めて実施、子どもたちの生の声を聞くことができた。これらの内容を精査、今後の事業展開に生かしながら、事業目的の実現に向けて引き続き取り組んでいきたい。 ※詳しくは、別添「令和5年度川越市提案型協働事業実施報告書」をご覧ください。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	・アンケート調査の結果も踏まえ、囲碁講座の内容や進め方（クラス分けをするか、広く浅く教えるやり方でいいか、など）について、igoまち倶楽部の中にチームを作って再検討し、スタッフ間で共有する。 ・実施を希望しなかった学童への対応を検討する。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	学童保育、放課後子供教室での囲碁講座の有効性が認められたので、市の委託事業として採択されることを希望する。 （委託事業にならない場合は、自主財源で実施することになるが、財政的にはかなり厳しいのが現状）

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和5年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	コミュニティラジオでアクティブ防災
団体名	株式会社小江戸FM
市担当課名	防災危機管理室
事業の目的	防災に強いといわれるメディアとしてラジオに強い期待が持たれています。川越市防災危機管理室と協力し、社会的弱者の方、障害を持つ方などを含め、幅広い年齢層の防災意識高めるための宣伝事業を提案します。
事業の実施内容	・9月18日（月・祝）クレアパークにて防災を遊んで学ぶイベント「あそぼうさい！まなぼうさい！」開催。 今年も約500名に来場いただきました ・ステージでは防災士による心肺蘇生法・AEDの講座や搬送訓練 ・ラジオ出演：防災士による川越の河川と水害ハザードマップの重要性や台風の備えについてお話しいただきました。 ・ラジオ出演：NTT東日本埼玉西支店長より災害伝言ダイヤルの無料体験、ラジオ川越との防災協定についてお話しいただきました。 ・ラジオ出演：防災士・一般社団法人防災共育協会認定講師による災害時のラジオの重要性についてお話しいただきました。
事業実施時における市との役割分担	小江戸FM：イベントや番組の企画、運営
	川越市防災危機管理室：情報提供、イベントチラシの市内小学校への全校配布、広報での告知。
事業の成果	9月18日（月・祝）のクレアパークで開催された「あそぼうさい！まなぼうさい！」のイベントはステージでの公開収録がなかったもののステージ上では災害時の救命の講座や広場、テントでの体験が充実しました。また、昨年同様の非常食展示のほかに、防災ラジオの展示や緊急割り込み放送体験、自宅周辺のハザードマッププリントサービス、本物の消防車展示や消防車キッチンカー&放水体験など昨年よりも出店数が増えた部分でイベント規模が前回よりも大きくなったと感じました。子どもたちも身近に防災について考えるきっかけになったのではないかと思います。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	新規で取り入れた内容が多く、段取り等でチラシのFixが遅れ、学校全体配布の納期に余裕がありませんでした。事前に納期の確認も怠った部分があったので次回は初期段階から確認を取るようにする。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	報告会では「委託事業」でも良いのでは？との意見もありました。その部分も視野に入れていきたいです。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和5年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	川越的場八景蟹ヶ渚再生事業
団体名	川越的場八景蟹ヶ渚再生する会
市担当課名	建設部 河川課・環境部 環境政策課
事業の目的	川越市大字的場地内、蟹ヶ渚の再生に関する公益活動を行い、地域の環境保全と憩いの場を創出する。
事業の実施内容	清掃活動に取り組み、北側の耕地化と水路周辺の遊歩道化を進める。 ○定期的に除草等の清掃活動、除草作業、花壇づくりを行う。 ○ひまわりやサツマイモ等を植付け、耕地化を進める。 ○渚北側（下流側）の水路両岸の遊歩道化を進める。
事業実施時における市との役割分担	境界確認と内整備を協議し、事業遂行を進める
事業の成果	事業計画に従い、事業を遂行した。 活動は月1回を基本として展開し、会員数を増加した。 市の協力を得て、駐車スペースの砂利すき込みが実現した。 耕地でのサツマイモ植付けは、収穫量確保に難点が見られた。 収穫したカボチャ100個をみよしの幼稚園に寄付。 水路両岸の遊歩道化に着手し、将来を見通すことができた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	会員増強と近隣自治会との関係性を高めたい。 市の協力を得て、官民境界を明確にし、散歩コースとして整備したい。 広報等により外部への発信を高めたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	継続して事業を遂行する。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和5年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	新宿町五丁目 地域デジタル化
団体名	新宿町五丁目自治会
市担当課名	市民部 地域づくり推進課
事業の目的	新宿町五丁目地域内での情報発信のデジタル化
事業の実施内容	自治会内にデジタル化特別委員会を置き、お知らせや回覧物等のデジタル配信、行事のライブ配信、町内防災訓練でSNS安否確認訓練、デジタル機器操作説明会などを実施。
事業実施時における市との役割分担	提案団体が果たそうとする役割：住民の集まりである自治会の強みを活かし、計画～準備～募集～実施～検証のそれぞれを総合的に行います。
	川越市に期待する役割：所轄課へは、市地域政策の立案実行者として、当事業への助言、情報提供、更に事例研究や好事例の発信をしていただきました。
事業の成果	自治会内に特別委員会を設置し活動。 SNS配信、ホームページ開設準備、5種SNSを令和5年中90回延55,422人へ配信。 行事のライブ配信は21回配信22,469人視聴。イベント録画50回。 町内防災訓練でSNS安否確認実施し、開始30分で76%応答。 スマホ操作講座令和5年度中5回実施。 マイナポイント手続き支援、ワクチン接種予防接種予約支援。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	引き続き次のことを推進します。 1. シニアのデジタル機器使用を図るため、操作講座の継続実施。 2. 町内デジタル環境の向上、集会所へ機器設置。 3. 町内や行事、集いの場の動画紹介。 4. 見守り活動にテレビ電話の活用。 5. 地域デジタル化展開のマニュアル作成など。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	○3年間で地域デジタル化を図るために必要な投資や準備を済ませ、補助金が終了した後も当該事業を自治会として継続していく予定です。 ○地域デジタル化を市内の他の自治会が導入し、平準化するためのノウハウをマニュアル化し、所轄課を中心に広報していただき、広域で同様の事業が拡充されることを期待します。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和5年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	登川直穂子音楽振興事業
団体名	登川直穂子リサイタルin川越・実行委員会
市担当課名	文化芸術振興課
事業の目的	世界のオペラの舞台積極的に活動が続けてこられた登川直穂子の歌声を川越にお住まいの方々に広く知っていただきたい。また音楽に興味があるけれど身近で本格的な指導者や演奏家にふれあう機会が少ない子どもたちに唄う事、鑑賞することの楽しさを伝えていきたい。
事業の実施内容	・8月2、3日の2日間の子どものための声楽ワークショップ。ウェスタ川越小ホール(10:00-16:00)参加者の希望する個別指導。参加者:10名・9組(小5から中3まで)女子8名、男子2名。2日目には、家族を招いてミニ発表会を開催。アンケート、子どもたちの声を添付します。 ・1月20日(土)ウェスタ川越小ホール(14:00-16:00)市民に向けたコンサート。参加者は170名招待者・高校生以下も含む。 ・2月14日(水)ウェスタ川越小ホール(14:00-15:30)特別支援学校60周年記念コンサートとして開催。生徒・教職員・保護者を含め70名参加。
事業実施時における市との役割分担	○提案団体が果たそうとする役割 事業の周知・1/20公演チケットの販売、運営。他の市民団体への協力依頼や連携をつくる。
	○川越市に期待する役割 広報、市の施策などの情報提供・関係課への連絡調整 声楽WS 申込窓口
事業の成果	・声楽ワークショップについて 募集の告知期間が短期?、音楽ワークショップという事業になじみがないためか、参加者が少ないと感じたが、子ども達の意識が高いことに驚かされた。結果、一人一人に十分な時間が取れたことが、非常に良かった。本件のような事業にも需要があることを知ったことも成果でした。 ・ウェスタ小ホールでの、オペラの楽曲中心のコンサート。 オペラのファンも初めてののかたも楽しんでいただける催しになったと思う。大ホールでのオペラとは異なる、身近な楽曲としてこれからも市民の間で浸透していった欲しいと考えている。 ・学校公演について 最期の曲は、生徒たちとの素晴らしい混声合唱になりました。演奏が終わって生徒さんたちからの、感想発表の挙手が止まらず、嬉しい誤算となりました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	私たちの団体が考えている小さな時から一流の音楽家の演奏に親しむ、しかもライブで。となると、演奏者それぞれに対する謝金が、一番のハードルになります。学校公演にしても、ワークショップを開くにしても、共感して協力していく仲間を増やしていく事が大切だと考えています。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	この事業も子どもたちが生き生きと育つ川越の一環を担えたら良いと考えています。まずは、地道に仲間を増やしていきます。

令和5年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	仲町地域交流会活動事業
団体名	仲町青陵会
市担当課名	地域づくり推進課
事業の目的	仲町の子ども達・次世代へ自分の住む町の魅力を知る為の事業です。 仲町とはどんな町か川越祭りに参加する町内とはどんな事をしているかなど、地域を知るきっかけになり、地域の方と交流していくことで、世代を越えて交流を促す事業となります。仲町の町の中にはどんな人が住んでいるのか、どんな商売をしているお店があるのか、蔵の街とはどんな町なんだろうと子供たちが疑問に思っていることも、交流の中で答え合わせをしていく事を目的としています。 更に、今後新たなマンションの建設で新しい世帯が増えることも考えての交流会となります。この事業内容を今後は市内の次世代世帯への参加型交流事業にしたいと考えております。
事業の実施内容	地域交流を図るために、地域交流散歩と仲町マップの作成をして、地域の商店、文化財、公共施設、地場産業特産品の地元の川越唐棧についてなどを記入して自分の住む町を作成してもらいます。また、地域の交流をすすめるために地域交流散歩の開催と毎年開催している交流会バーベキューを一緒に行い、子供たちと子ども世帯の交流を促進します。
事業実施時における市との役割分担	仲町青陵会：イベントの企画・運営
	地域づくり推進課：地域づくりに関する情報提供や市ＨＰ等によるＰＲ活動。
事業の成果	仲町の子ども達と街を散策しながら、町の特徴を説明して、店主などの話を聞くことで、うまく地域交流が出来たことは、一番の成果でありました。その後のBBQ交流会においても事業内容にある、地域で子供を宝と感じ、子ども達と町の人間が交流を深めていたことが印象的でした。参加した子供たちも町にある魅力に気づいたと話をしてくれ、一定の評価が出来る内容であったと感じています。町の店舗で説明をしてくれた、バンコドウ、小川菊、呉服笠間、松本醤油の方々も地域の事を知ったうえで、町に住む事で安心した生活を送って欲しいとご意見を頂きました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	開催募集にあたり、募集段階で人数が把握できる様にすること、子ども達の参加だけでなく、興味のある大人ももう少し募集出来ると良い。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	継続的に事業を続けていきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和5年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	「仙波の田んぼで季節を感じ、食を味わう」農業振興事業
団体名	仙波の田んぼ緑肥の会
市担当課名	農政課
事業の目的	小さくても密度の濃いコミュニティを形成することを目的とする。
事業の実施内容	5月6日（土） イベント「ストロベリーキャンドルの花咲く田んぼでたのしもう！」 30名（12家族） 6月17日（土） イベント『チェーン除草』体験（ジャガイモ掘り体験付き） 10名（5家族） 7月25日（火） “会報発行「仙波の田んぼ緑肥の会」 田んぼだより 第1号 ・報告イベント「ストロベリーキャンドルの花咲く田んぼでたのしもう！」” LINEで配信 8月18日（金） “会報発行「仙波の田んぼ緑肥の会」 田んぼだより 第2号 ・PRイベント「収穫まで1ヶ月！稲穂を観ながら夕涼み。仙波ハチミツ搾り」” LINEで配信 8月26日（土） イベント「収穫まで1ヶ月！稲穂を観ながら夕涼み。仙波ハチミツ搾り」 12名（6家族） 9月30日（土） “会報発行「仙波の田んぼ緑肥の会」 田んぼだより 第3号 ・PRイベント「新米を味わう会」” LINEで配信 10月07日（土） イベント「新米を味わう会」 50名（大人42人） 10月09日（月） “会報発行「仙波の田んぼ緑肥の会」 田んぼだより 号外 ・報告イベント「新米を味わう会」” LINEで配信 11月19日（日） “会報発行「仙波の田んぼ緑肥の会」 田んぼだより 第4号 ・PRイベント「餅つき」” LINEで配信 12月01日（日） 市民活動団体交流会 参加 役員2名参加 12月10日（土） イベント「餅つき」 50名（大人42人） 12月13日（日） “会報発行「仙波の田んぼ緑肥の会」 田んぼだより 第4号 ・PRイベント「餅つき」報告、来年度から会員募集の告知” 46名（大人32人）
事業実施時における市との役割分担	実際にイベントの実施。
	イベント開催へのアドバイス提供。
事業の成果	①イベント 5回開催 ②『仙波の田んぼり緑肥の会だより』発行：7回発行（号外含む） ③ホームページ作成 ④LINE友達（正会員・準会員） 55名（2024年01月10日時点） を実施することで、消費者が知りたいことや体験したいことを提供できました。イベントの開催情報や報告に合わせて会報の発行により、農家が伝えたい事や農作業に関する知識なども記載して発信することで、農業をより深く知って頂く助けとなりました。以上の活動の結果、目標である「小さくても密度の濃いコミュニティの形成」が達成出来ました。現在、LINE友達として55名と繋がっています。また、新たな気づきとして、参加者からの新鮮な意見「農作業の大変さを初めて知った」「お米の種類が色々あることを知った」などが得られました。更に、農家の意識改革として、「消費者に玄米のニーズがある」ことを知りました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	イベントを経験した準会員55名の中から、正会員を獲得することが課題。 正会員に対するインセンティブの設定がその対応策となると考える。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	米農家の米を全て直販とするためには会員数を大幅に伸ばす必要があるが、現在最もコストが必要となるホームページの構築を進めると共に、並行して正会員の獲得を進め、システム運用を軌道に載せることで、後はクチコミやPRにより近隣住民からファンやサポーターを増やしていく。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。